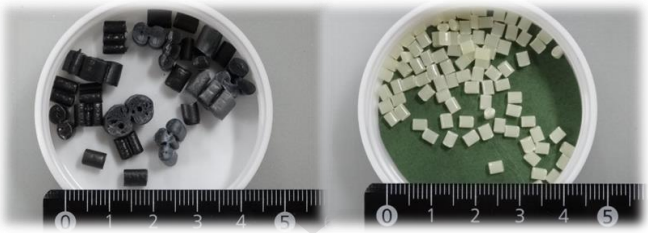
独立行政法人 環境再生保全機構 ERCA Environmental Restoration and Conservation Agency

環境研究総合推進費中間研究成果サマリー

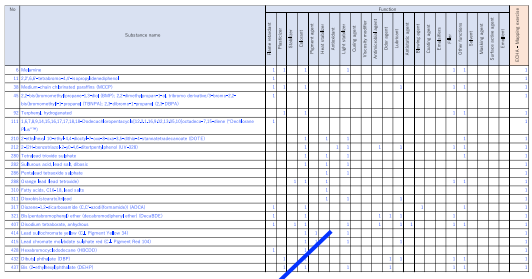
研究課題番号	【3-2301】
研究領域	資源循環領域
研究課題	「プラスチック循環の推進と調和する化学物質管理に向けた樹脂添加剤の循環実態の解明」
研究代表者（所属）	梶原 夏子（国立研究開発法人国立環境研究所）
研究期間	2023年度～2025年度
研究キーワード	プラスチック資源循環、樹脂添加剤、残留性有機汚染物質、物質フロー、再資源化

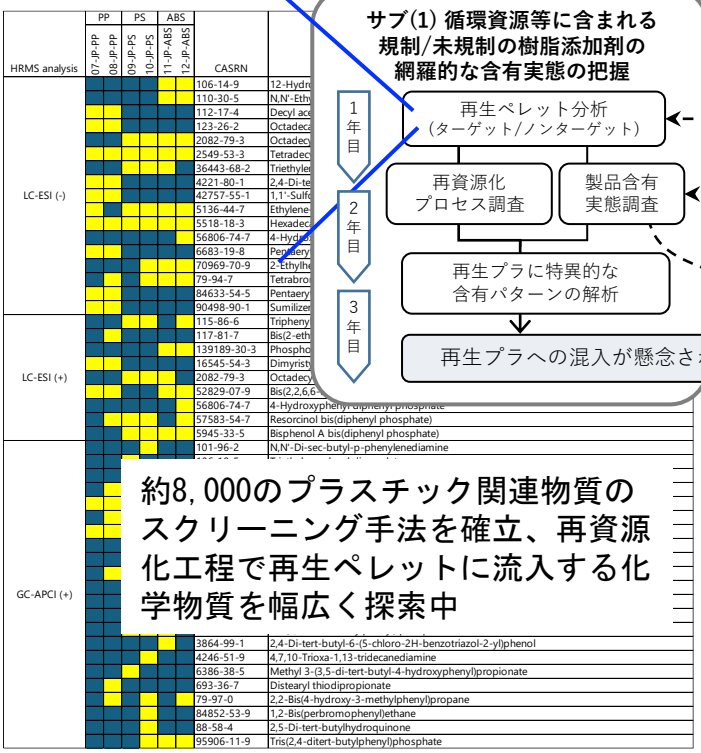
研究概要と進捗状況（中間の2024年度時点）



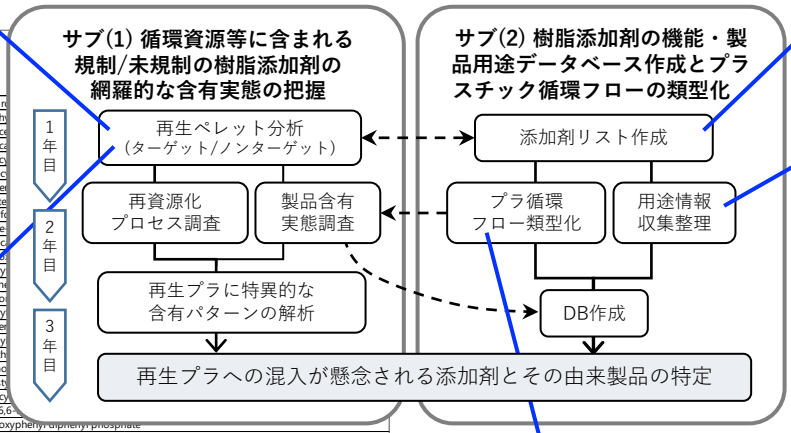
ターゲット分析で約100の再生ペレット試料のPOPs（PBDEs、CPs、PFCAs）含有実態を調査

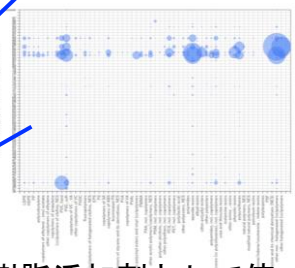
樹脂添加剤として使用されるREACH規則高懸念物質（SVHC）88物質と、その他約9,000物質のリスト作成、機能用途、化学構造情報の収集整備





約8,000のプラスチック関連物質のスクリーニング手法を確立、再資源化工程で再生ペレットに流入する化学物質を幅広く探索中





樹脂添加剤として使用されるSVHCを含有するプラ製品の詳細データ取得、DB格納

プラスチック製品ごとの排出～回収～処理・再資源化状況の情報収集、フロー類型の整理（継続中）

環境政策等への貢献

- プラスチック資源循環の阻害要因の一つである懸念樹脂添加剤について科学的知見を提供
  - 実測データは、バーゼル条約POPs廃棄物技術ガイドラインへ科学的知見として提供可能、バーゼル条約公開作業部会の対処方針作成や国内のリサイクル業界との意見交換で活用
- プラスチックリサイクルにおける存在、流入状況をふまえた懸念化学物質の特定
  - プラスチックリサイクルの促進とリスクベースでの化学物質管理の両立、プラスチックリサイクルにおける多様な化学物質の管理への国際的要求への備えに貢献